

日本工学アカデミー主催 公開シンポジウム 工学教育の新しい実践と工学の克服 2013年2月18日 アルカディア市ヶ谷

開催要旨： ヘンリー・ダイヤーによる「エンジニアリングは自然の力を社会の必要に適合させることにある」という定義に立ち戻り、工学の位置づけをグローバル時代に合わせて見つけ直すことが求められている。工学がその本来の力を発揮できるようになるためには、効果的な工学教育による人材育成が不可欠である。この機会にまず、外部講師も招き、日米において注目される工学教育の新しい実践例について、その理念を含めた情報交換・意見交流を行いたい。さらに、この課題において日本工学アカデミーの果たすべき役割についても活発に意見交換したい。

プログラム：

- 13:00-13:40 『工学の克服フォーラム』リーダー：長井 寿氏（物質・材料研究機構）
『工学の克服フォーラム』の活動紹介とエンジニアリング・デザイン
ーヘンリー・ダイヤーに立ち戻りつつ、工学のあり方について基本理念を整理する。
- 13:40-14:20 『工学の克服フォーラム』メンバー：小林信一氏（筑波大学）
「米国オーリン・カレッジの工学教育改革」
ー現在、米国で注目を集めているオーリン・カレッジの現地訪問の成果を紹介する。「エンジニアをイノベーションの専門家として再定義したい。人間と社会のニーズへの配慮、エンジニアリング・システムの創造的デザイン、企業の努力とフィランソロピーによる価値の創造をすべて包含する。」
- 14:20-14:40 ティーブレーク
- 14:40-15:20 招待講演：金沢工業大学教授 基礎実技教育課程主任 千徳英一氏
「金沢工業大学におけるプロジェクトデザイン教育」
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/pd/index.html>
ー問題発見から解決にいたる過程・方法を実践しながら学ぶ。「学生同士がチームを組み、それぞれのアイデアや知識を組み合わせることによって、一人では生み出すことが難しい新たな発想や価値が生み出される。」
- 15:20-16:00 招待講演：工学院大学教授 グローバルエンジニアリング学部学部長 雑賀 高氏
「工学院大学グローバルエンジニアリング学部におけるエンジニアリング・クリニック・プログラム（ECP）」
<http://www.kogakuin.ac.jp/another/ecpc/index.html>
ー企業が抱える最新技術テーマを与えられ、それに学生がチームで挑戦する。「学生に必要なのは、研究する力に加え、自分で気づき、表現し、そして行動する力。育てられるのではなく、自ら育つ力です。」
- 16:00-16:30 全体討議：全員